新型コロナウイルス感染症予防接種を受ける前に

1. 新型コロナウイルス感染症について

新型コロナウイルスワクチンは、感染症の発症を予防し、死亡者や重症者の発生をできる限り減らし、感染症のまん延の防止を図ることを目的に接種するものです。予防接種をしたからといって、感染しないわけではありません。ワクチンは一定の効果が期待される一方、リスクも存在します。皆様一人ひとりがワクチン接種の効果とリスクをご理解いただいた上で、接種を受けていただくようお願いします。

2. 有効性・安全性について

国内外で実施された研究などにより、新型コロナウイルス感染症にかかった場合の入院や死亡等の重症化等を予防する重症化予防効果が期待されています。なお、極めてまれではありますが重篤な副作用も起こりえます。（7. 副反応について参照）

3. 接種を控えるべき方について

次のいずれかに該当すると認められる場合には、予防接種を受けることができません。

(1) 新型コロナウイルス感染症に係る予防接種に相当する予防接種を受けたことのある方で当該予防接種を行う必要がないと認められる方
(2) 明らかに発熱がある方（一般的に体温が37．5℃を超える場合）
(3) 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな方
(4) 新型コロナウイルス感染症に係る予防接種の接種液の成分によってアナフィラキシー（注）を起こしたことがある方
(5) 前記に掲げる方のほか、予防接種を行うことが不適当な状態であると医師に判断された方

注：接種後30分以内におこるひどいアレルギー反応で、発汗、顔が急に腫れる、全身にひどいじんましんが出る、吐き気、嘔吐、息が苦しいなどの症状に続き、血圧が下がっていく激しい全身反応

4. 接種上の注意について

次のいずれかに該当する方は、健康状態や体質等を担当の医師にしっかり伝え、よく相談した上で接種を行ってください。

(1) 心臓、腎臓、肝臓、血液疾患や発育障害などの基礎疾患のある方
(2) 予防接種を受けて、接種後2日以内に発熱や全身性の発疹などのアレルギーが疑われる症状がでた方
(3) 過去にけいれんを起こしたことがある方
(4) 過去に免疫不全の診断を受けた人、近親者に先天性免疫不全症の方がいる方
(5) ワクチンの成分に対して、アレルギーが起こるおそれがある方
(6) 抗凝固療法を受けている人、血小板減少症または凝固障害のある方

５．用法・用量・接種間隔について

各ワクチンが指定する摂取量を筋肉内に注射します。

６．予防接種を受けた後の注意

⑴ 接種後にアナフィラキシーを起こすことがあるため、接種後少なくとも１５分間は、健康状態の変化に注意しましょう。また、過去にアナフィラキシーを含む重いアレルギー症状を引き起こしたことがある方については、接種後３０分程度、状態変化に注意しましょう。の副反応の多くは２４時間以内に出現します。接種部分が赤くなったり、痛くなったり、熱が出るといった副反応が起きることがありますが、通常 2～3 日で治ります。ごくまれに重い副反応があらわれることがあります。接種後に局所の異常反応、体調の変化、高熱、けいれん等の異常な症状を起こした場合には、速やかに医師の診察を受けてください。
⑵ 接種当日は、激しい運動は避け、いつもどおりの生活をしましょう。
⑶ 接種部位は清潔にしてください。当日は、入浴しても差し支えありませんが、接種した部位を強くこすることはやめましょう。
⑷ 飲酒はそれ自体で体調の変化をきたす恐れがあるので、ワクチン接種後 24 時間は避けましょう。
⑸ 他のワクチンを接種する場合の接種間隔については、医師にご相談ください。

７．副反応について

副反応とは、ワクチン接種に伴い、ワクチン接種の目的である「免疫の付与」以外の反応が発生した場合、これを副反応と呼びます。

副反応として、注射した部分の痛み、疲労、頭痛、筋肉や関節の痛み、発熱等がみられることがあります。こうした症状の大部分は、接種後数日以内に回復しています。また、まれに重篤な副作用として心筋炎や心膜炎をおこすことも報告されています。

接種後数日の間に胸痛、息切れ、ぐったりするなどの異常な症状を起こした場合には、速やかに医師の診察を受けてください。

８．重篤な副反応発生時の救済制度について

ワクチン接種によって重篤な副反応、健康被害が生じた場合は、医療費及び医療手当等、予防接種法の定期予防接種に準じた一定の給付を行う制度があります。

問い合わせ先　東秩父村保健センター　☎0493－82－1557